

環境設備 演習1

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

ウラ模試1

[No.1] 環境工学に関する用語とその単位との組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 昼光率は、直接昼光率（受照点に入射する直射光による昼光率）と間接昼光率（受照点に入射する天空光による昼光率）との和で表す。
2. 長波長放射率は、赤外放射域において、「ある部材表面から発する単位面積当たりの放射エネルギー」を「その部材表面と同一温度の完全黒体から発する単位面積当たりの放射エネルギー」で除した値である。
3. 輝度は、比視感度を考慮した単位時間当たりの光のエネルギー量である光束の単位立体角当たり、単位面積当たりの密度である。
4. 音響エネルギー密度レベルは、音のもつ単位体積当たりの力学的エネルギー量を、デシベル表示したものである。

[No.2] 室内の温熱・空気環境に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか

1. 飽和絶対湿度は、ある温度の空気を含むことのできる限界の水蒸気量を、単位乾燥空気当たりの水蒸気量で示したものである。
2. 「PMV」は、主として、温熱環境の評価に用いられる指標であり、居住者の不満足率の予測値をいい、 $-0.5 < PMV < +0.5$ の値が推奨されている。
3. 着席安静時における日本人の標準的な体格の成人男性の代謝量は、約 100 W/人である。
4. 人体からの総発熱量に占める潜熱発熱量の比率は、一般に、作業の程度に応じて代謝量が多くなるほど増加する。

[No.3] 換気に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建築物が風圧力のみによって換気される場合、その換気量は、外部風向と開口条件が同じであれば、概ね外部風速に比例する。
2. 汚染空気が周囲から流入してはならない手術室やクリーンルーム等においては、第二種機械換気方式又は室内の気圧を周囲より高くした第一種機械換気方式とする。
3. ある建築物の容積の異なる二つの室において、室内の二酸化炭素発生量（ m^3/h ）及び換気回数（ $\text{回}/\text{h}$ ）が同じ場合、定常状態での室内の二酸化炭素濃度（%）は、容積が大きい室より小さい室のほうが高くなる。
4. 同風量用の外気取入れガラリと排気ガラリでは、一般に、通過風速を高くできることから、外気取入れガラリのほうが必要な正面面積は小さくなる。